



2月24日から3月30日まで、第1回定例会が開かれました。第1回定例会は、平成20年度の最終補正予算審議と21年度の当初予算特別審議を行う重要な定例会になります。

補正予算では定額給付金関連予算が、また21当初予算では経済不況が続く中、不況打開と生活安定のための積極的な予算の内容について、活発に議論を展開しました。私は、会派の本会議における代表質問と21当初予算の民生費と教育費について質問をしたので、今回はそこを中心に報告します。(詳細はHPの録画にてご覧ください)

代表質問骨子、
I 平成21年度予算と今後の行財政運営について

- ① 今後の景気動向をどう見るか
- ② 21年度予算の特色と今後のねらい
- ③ 地域振興・地域福祉予算について
- ④ 文化振興予算について
- ⑤ 今後の行財政運営の取り組みについて

II まちづくりについて

- ① 都市計画マスタープランの策定について
- ② 南部地域のまちづくりについて
- ③ 亀戸北口駅前広場の整備について
- ④ J.R越中島貨物線について
- ⑤ 堅川河川敷スポーツ公園の整備について

III 教育問題について

- ① 日本語教育について
- ② 部活動の活性化について
- ③ 教育委員会の在り方について

IV 中小企業対策と観光振興について

- ① 中小企業支援策について
- ② 公共工事の前倒しについて
- ③ 観光振興プランについて

質問の概略と回答について

Iのテーマについては、今後の景気の状態を、本区独自の調査機能をもって分析するぐらい準備が必要ではないか。今後の少子高齢化の地域社会では、町会や子供に関する諸課題を解決するために、もつと地域振興・地域福祉計画を重視すべきでは。新基本構想の下での今後の行財政改革をどう考えるかなどの質問をしました。

回答は、景気の読みについてはなかなか難しいが、しっかり押さえる。地域振興・地域福祉については極めて重要であり、積極的に取り組むことを約束しました。

IIのテーマについては、今年から2年間続く都市マスタープランの策定には、充分区民の参加を図ること。南部地域のまちづくりは、総合病院の整備や豊洲文化センターの改築に伴うシビックセンター構想など様々な都市整備に、整合性を持たせること。亀戸北口駅前にはバス停を西側と配置替えをして、駅前を有効利用しては。J.R貨物越中島線はゆりかもめを豊洲から亀戸に引き込むなど有効利用を早くすべき。堅川河川敷の公園整備は、江戸情緒を残す意見などの区民の要望を充分考慮すべき、など

の質問をしました。

回答は、都市マスの区民参加型の手法や、南部のまちづくりについては、できるだけ区民の声を聞くことを約束し、公園整備については、様々な区民のアイデアを参考にすることを確認しました。またゆりかもめの延伸については、今年度から調査を推進する旨を約束し、亀戸北口駅前広場の件も、きわめて重要な提案として検討する旨を約束しました。

IIIのテーマについては、世田谷区が日本で初めて取り入れている、区独自の教科書を編成した日本語教育を例に、本区でも日本語の美しさや日本文化を学習するプログラムを検討すべき。部活動の活性化は、本区の体育協会、バスケットやサッカー、バトミントンなど企業チームと連携して、中学における既存の部活を廃部することなく活性化することを重点的に取り組むべき。教育委員会の委員に学識経験者や校長経験者を採用すべきと質問しました。

回答は、日本語教育は本区でも、全小中学校で取り組めるように検討する。部活動の活性化はなお一層努力する旨を約束し、教育委員会の問題は、委員の問題も含め活性化していきたいと述べました。IVのテーマについては、昨年▽

日々の活動

★平成21年第一回 区政報告会開催



今年初めての区政報告会を、2月6日(金) 亀戸文化センター5階研修室で開催しました。2月24日から始まる区議会定例会の前に、定例会での予定案件を説明して、その中で区民の視点から感じる行政に対する意見や要望を聞きました。やはり定額給付金の問題や介護保険の介護報酬が3

★視察報告

%アップすることの意味や、自転車駐輪場の整備の件など、今回も有意義な意見交換ができました。

1月30日から31日にかけて、大分県の由布院温泉と豊後高田市の「昭和のまち」レトロ事業の観光振興の現状を視察してきました。16時羽田発の飛行機で大分に向かい、由布院の現地には、19時ごろに到着したので、視察は次の日の午前中に由布院の商店街の景観事業を視察し、午後に豊後高田の昭和の街事業を視察しました。



由布院駅前

年間400万人が訪れる由布院は、農村の中の温泉街を生かし、NHKのテレビで放映されたこともあり活況を帯びています。しかし駅前など街の景観が清里に似てきていることから、由布院らしさが埋没することを危惧し、新しい街のルールづくりが必要とのこと。

また昭和の街では、年間の来訪者数こそ30万とまだ負けているが、平成13年から街並み景観統一整備事業によって順次改修された街並みは非常に魅力があった。特に昔ながらの日常的な雰囲気を残し、近隣の住民が観光だけではなく、日用品を求めて自然体で店を利用しているところが、なお一層街の魅力を高めていました。昭和に街の事業も、最初は一人の商工会議所の職員が街の衰退を何とかしたいという強い思いが、人と行政を動かした成功した例です。本区はまだ恵まれた環境なので、もつと本気になれば素晴らしい街を形成していけると思われました。

△秋からの不況から中小企業を守るためにも、実情に即した緊急融資の拡大と、公共工事の前倒しなど仕事の発注量を拡大すること。また今年度から調査を開始する観光振興プランを、全庁的に精力的に取り組むことなどを質問しました。

回答は、緊急制度融資は重要なことであり、特に21年度当初予算の計画で終わるのではなく、継続的に支援していきたいとの回答を頂き、観光振興プランも墨田区のスカイツリータワーの影響も含め、精力的に取り組むことを約束しました。

▽予算特別委員会で質問

3月2日から6日まで行われた21年度当初予算特別審査委員会では、民生費と教育費の審査のところで細かく質問をしました。紙面の都合上概略だけ述べますと、民生費は①小規模特別養護老人ホームの運営費補助問題、②民生児童員の活動について、③福祉の人材育成の問題、④高齢者見守り事業など地域福祉計画の策定についての関連質問を行いました。また教育費については①職場体験事業について、②幼小中連携教育検討事業についてその内容の質を問い、特に幼稚園での年少支援員の予算化を要望しました。

皆様の声は、議員の力になります。